

私たちが提案する「上の台緑の村」を活用した 地域再活性化への取り組みロードマップ

既存の施設サービスを継承しつつ、新たな取り組みを加えながら地域活性化に繋げていきます。

地域振興と共生

基本方針として、本施設の利活用は地域における文化活動と経済活動の活性化を目指します。地域社会との協力と共生を重視し、単なる一時的な成功ではなく、地域全体の発展に寄与することを目指します。

長期的な持続性

利活用を通じて地域に深く根ざし、持続可能な経済効果を生むことが重要です。一過性の成功ではなく、長期的かつ持続可能な成長を追求し、地域コミュニティと共に発展していきます。

地域主体性と連携

地域の方々と連携しながら、地域主体性を重視します。地域住民や事業体と協力し、共にアイディアやプロジェクトを創り上げ、地域に根付いた活動を展開します。

地域経済効果の最大化

施設の利用により、地域経済へのポジティブな影響を最大化します。地域事業者や地元の資源を活かし、雇用機会の拡大や地元産業の振興を通じて、地域経済の発展に寄与します。

地域コミュニケーションの活性化

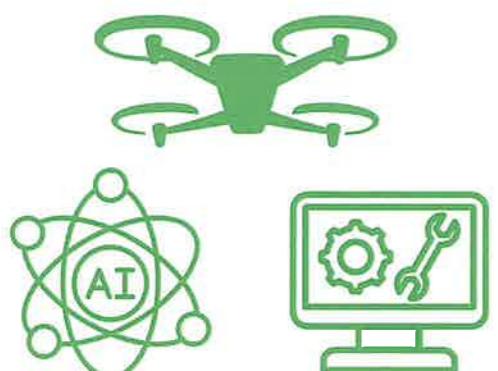
施設を通じて地域のコミュニケーションを促進し、交流の場としての機能を果たします。イベントやプログラムの開催、地域住民参加型の活動などを通じて、地域全体の連帯感を高めます。

施設の多面的活用

施設は単なる空間ではなく、多様な目的で活用されるべきです。文化活動、経済活動だけでなく、教育、健康、レクリエーションなど、様々な領域にわたる利用を奨励し、地域の多面的な発展を促進します。

PHASE 1

2024-2026 (収益化)



ITを活用した地方創生

地域の若手IT人材の育成・採用を行い、人材流出の防止やU/Iターンの活性につなげます。ドローンやAIを活用して草刈りや農地の管理の省力化、第四次産業革命に向けた配送システム等の研究開発に取り組みます。また、ニアショア開発拠点として収益構造を確立し、無理の無い園地の維持管理を目指します。

IT事業による雇用創出と収益構造の確立：

- ・地域にITビジネス拠点を設立し、若手人材の育成・採用を推進。
- ・地方からの人材流出の防止やU/Iターンの促進を目指し、地域の人材資源を活かす。
- ・ITによる収益化を優先し、施設の園地維持管理を無理のない形で実現。

【主な事業】

- ・ニアショア開発
- ・AI・IoT研究開発
- ・ECM、アプリ開発
- ・IT研修事業



PHASE 2

2027-2029 (事業化)



マーケティング領域の転換

自然豊かな上の台のロケーションと既存の施設の利活用にマッチしたハーブ事業を展開します。周辺遊休農地を活用した生産・加工販売等、園内ショップを手掛けながら地域生産者と連携し、地産品の販売事業の拡充を図りながら、地域生産者とのコミュニケーションを積極的に構築しつつ、幅広い年代の地域雇用創出の拡充を図ります。

地域経済活動拠点への転換：

- ・レジャー施設から地域経済活動拠点への転換を計画。
- ・来場者をターゲティングし、地域生産者との連携を強化。
- ・周辺遊休農地の有効活用を通じて、地域経済の活性化と雇用創出を促進。

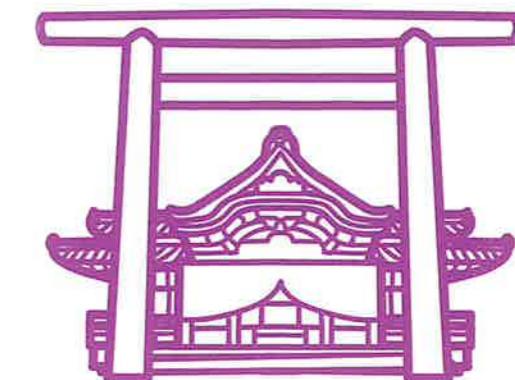
【主な事業】

- ・ハーブ生産加工販売
- ・観光農園事業
- ・ショップ、カフェなど



PHASE 3

2030- (地域連携)



地域インバウンドの強化

安来の歌にもある比婆山の保全を中心に、地域のコミュニティ、観光資源や歴史的名所と連携しながら、SNSなどを活用して情報発信／提供を積極的に行い、インバウンドによる地域活性を目指します。また、地域コミュニティ活性のため、新しいコミュニケーションチームの立ち上げや地域活性に必要な取り組みを推進してまいります。

地域連携とインバウンドビジネスの促進：

- ・地域住民や観光資源、歴史的名所との連携、情報発信と保全活動を推進。
- ・インバウンドビジネスを活性化し、地域の観光資源や魅力を発信。
- ・施設が地域連携コミュニティの機能を果たし、持続的地域発展に積極的に寄与。

【主な活動】

- ・比婆山保全活動
- ・情報発信
- ・地域情報交換活性

